



もみじ台地区福祉のまち推進センター
事務局 幸田 啓子さん

地域みんなが ひとつになる 住民組織と社会資源のネットワーク

私たちが暮らす地域には、
企業や商店、医療機関、社会福祉施設、学校など
自分の住む地域、自分が通う
「私もちょっとだけお役にたてないか。」そう
そんな「地域の宝」「地域の力」をつないでい

——もみじ台地区福まちでは、積極的に地域の事業者との関係を築こうとされていますね。

区社協の研修で、事業者と地域が連携した見守り活動があることを知ったのがきっかけで、昨年11月に新聞販売店、今年1月には福祉施設の方と懇談する機会を持ちました。お話をすることで、事業者の方々も地域のことをよく知りたし、一緒に何かをしたい。けれども地域との接点が意外に少なく、情報を得る機会がないということがわかりました。住民も事業者も同じ地域の一員として、日頃から顔見知りの関係になることが大切なんですね。

——もみじ台という広い地域で皆が知り合いになるということは大変ですね。

福まちでは2017年から、小・中学生の登下校を見守る「見守り隊」の活動を始めました。子どもたちも次第に私たちの顔を分かってくれるようになり、見守り時以外に会ってもあいさつする関係になりました。こうした活動を通じ、住民同士の顔見知りの関係は確実に広がってきていると感じています。もみじ台で事業をする皆さんも同じようにつながって、たくさんの知り合いがいる地域になればいいなと思います。顔を知れば、いろいろな相談もしやすくなります。地味なことかもしれませんが、こういうつながりがあれば、災害など有事の時にも心強いですよ。

——福まちの「ほっと安心相談室」のことを教えてください。

ほっと安心相談室は、日常生活の困り事、健康や介護の

問題など福祉に関する相談を何でも受けていますが、相談を受けるボランティアの知識だけで十分対応できるのだろうかという不安を抱えていました。そこで、区役所や区社協、地域包括支援センター、介護予防センターに協力をお願いし、専門職員を派遣してもらえるようになりました。

区役所などの機関を社会資源の一つだと思って声をかけられたのは、私が保健師として札幌市に勤めていた経験があったからかもしれません。保健福祉の専門職と住民とが協力して地域の健康づくりに取り組むことがとても大切だと思っています。

——今後の福まち活動についてお聞かせください。

隣近所とのつながりがあれば、人はギリギリまで住み慣れた家で暮らせると思います。自分たちのために、自分たちの手で、安心して暮らせる地域づくりを細く長く続けていきたいです。そのためには、一緒にやっていただける仲間を増やせたらいいです。私は40代の頃から栗沢でミニ農園をやっています。福まち活動でちょっと疲れたとき、無心で土や緑に触れ、心を解放しています。決して無理はしません。地域の福祉活動を、自分のできる範囲で私たちが一緒にやってみませんか。

もみじ台地区福祉のまち推進センター

住所：厚別区もみじ台北7丁目 もみじ台管理センター内
(毎週月曜日、10時～15時※来所のみ (011) 898-6701)
福まち不在時の電話：(011) 897-6121 (もみじ台まちづくりセンター)

キーワード 社会資源

一定の課題を解決したり目標を達成したりしようとするとき、そのために活用できる人、物、お金や制度などをまとめて社会資源と呼びます。地域に存在する社会資源としては、①ボランティアなどの人的な力、②特技や資格がある方の専門的な力、③施設や学校などの建物(場所)・車両・労力、④個人や団体・企業からの寄附金や寄贈品などがあります。

あつべつ区福まちかわら版



厚別東地区福祉のまち推進センター
事務局長 長谷川雄助さん

住んでいる人々だけでなく、
どがあり、そこで働く人、通う人たちがいます。
地域が良い街であってほしい。
思っている人や事業者は少なくありません。
くことも、福まちの取り組みのひとつです。

——厚別東地区では、中学校や高校、さらには福祉施設などとも良好な協力関係にあると聞いています。

福まちが直接、学校や福祉施設など地域の社会資源と連携しているということではありませんが、単位町内会や福祉推進委員会が積極的に連携してきました。例えば、福祉推進委員が日頃見守りしている高齢者に認知症の疑いが出始めたとき、地域の福祉施設職員のアドバイスを受けたり、また町内会の会議や行事で施設を借りるケースもあります。

歩道の花植えや高齢者宅の除雪を、生徒たちのボランティアに協力してもらっている町内会もあります。福まちはこうした個々の連携を横に広げていくために、情報の集約・提供などを行っています。

——長谷川さんは現職(北海道警察)時代から、人のつながりを大切にされてきたと伺ったことがあります。

警察は地域社会と密着しています。何かあった時に動くのが警察ですから、日頃から地域のことを良く知っていなければなりません。枝幸署長をしていた時、地域の人が気軽に入って来られるように署長室のドアを開けっ放しにしまし

た。最初は皆びっくりしていましたが、いつの間にか談話室のようになりました。

昔から人との付き合いは好きでしたね。若い頃から山登りが大好きですが、本格的な登山では仲間が心をつなげなければ命に関わることになります。福まち活動も、いろいろな人がつながり、共感し、心をつなげて目的に向かうことがとても大事だと思います。

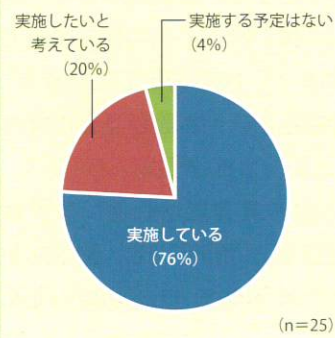
——今後、福まちでどのような活動を進めていきたいですか。

たくさんありますよ。福まちはどちらかというと高齢者のための活動が主ですが、若い人たち、特に子育て中の親が独りで悩んでいるケースも多いと聞きます。そうした人たちを地域で支え合うことも必要かと思っています。子育て相談会や子ども食堂、PTAと連携して親父の会もできたらいいですね。

あとは、日曜大工くらいならできる人、車を出せる人など、「ちょこっとボランティア」を募りたいとも考えています。事業者のボランティア活動にも期待したいですね。いずれの活動も、人と人とのつながりを大切にしたいと思っています。

地域貢献への意欲は96%

～区内の福祉施設



厚別区社会福祉協議会が2018年12月実施した区内の「社会福祉施設等における地域貢献活動調査」では、地域貢献活動を「実施している」または「実施したいと考えている」と答えた福祉施設が約96%に上り、福祉施設の地域貢献活動への関心の高さが表れる結果となりました。

厚別東地区福祉のまち推進センター

住所：厚別区厚別東4条4丁目 小野幌会館内
(毎週月・水・金曜日、9時30分～12時30分)
電話：(011) 898-2805

1歳6ヶ月からの運動療育!
小さい時から身体を動かす事は脳の活性化にもつながり、成長・発育の大きな基礎となります。スポーツ専門技術を有する指導者や保育士・教員資格を有する指導者がお子様の成長に合わせて「からだ」と「こころ」のバランスを整える運動療育を行います。
「言葉が遅れているかも・・・」「落ちつきがなくて・・・」「すぐに乱暴してしまう・・・」そんな心配をされていませんか? 運動は「交感神経」を刺激します。同時に感情を抑える「副交感神経」を働かせる事で、身体の成長だけではなく、上手な感情のコントロールや発語を促す効果もあります。お気軽に、ぜひ一度ご相談ください!!
札幌市厚別区厚別東2条6丁目1-1
北海道中央バス 白35 小野幌線(厚別東2条6丁目バス停)徒歩1分
011-809-6006
http://www.psmile.jp/